

稲作農家 各位

# 山武稲作情報 第2報 (2016年6月3日発行)

山武農業事務所 改良普及課

電話 0475-54-0226

FAX 0475-52-7914

## 山武地域の生育状況

天候も回復し、生育も進んでいます。しかし、茎数はほ場間差が大きく、茎数が確保され中干しに入れるほ場もあれば、まだ不十分なほ場もあります。水稻の生育に合わせた水管理を実施していきましょう。

また、取りこぼした雑草が散見されますので、雑草に適した薬剤を選択し、適切に除草対策を行ってください。

両総用水は6月16日(木)～6月30日(木)まで送水停止予定です。

参考 生育調査ほの調査結果 (調査日 6月1日)

### 【主食用米】

品種	場所	年	移植日	葉令	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色 SPAD	葉色 カラースケール
ふさ おとめ	山武市 (白幡)	28	4/30	8.6	27	13.1	290.8	43.7	5.4
		27	4/27	8.2	33.3	25.0	440.0	39.8	4.9
		平年値	4/28	8.0	33.0	19.9	325.9	40.5	5.0
ふさ こがね	山武市 (成東)	28	4/26	8.5	29.0	26.2	484.7	39.7	4.9
		27	5/1	8.5	31.7	27.9	516.2	40.4	5.0
		平年値	5/1	7.3	27.8	17.6	325.4	41.2	5.2
コシ ヒカリ	東金市 (北之 幸谷)	28	4/22	8.4	39	30.8	551.3	43.4	5.4
		27	4/25	8.6	47.8	28.7	548.2	38.4	4.8
		平年値	4/23	7.4	37.5	17.0	310.6	39.5	4.9
コシ ヒカリ	山武市 (成東)	28	4/26	7.8	29.0	19.0	351.5	37.2	4.6
		27	5/1	8.0	31.4	21.0	388.5	39.2	4.9
		平年値	5/1	7.0	31.2	15.2	297.7	38.6	4.8
ふさの もち	山武市 (成東)	28	5/10	6.2	29.0	13.3	246.1	37.9	4.7
		27	5/11	6.5	28.3	15.3	283.1	37.4	4.6
		平年値	5/9	6.2	28.4	13.2	244.2	37.0	4.6

平年値は過去10年間(東金市コシヒカリは9年間、ふさのちは6年間)の平均値。

### 【飼料用米】

飼料用米の受付は6月30日までです。ご検討ください。

品種	場所	年	移植日	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色 SPAD	葉色 カラースケール
アキヒカリ	山武市	28	4/26	38.9	28.9	449.2	39.9	4.9
初星	東金市	28	4/26	23.0	9.7	198.9	40.2	5.0
夢あおば	山武市	28	5/10	33.8	8.6	141.6	35.8	4.4

### 郵便で配信している方へお願い

稲作情報の配信を郵便から、電子メールまたはFAXへ切り替えを進めています。電子メール・FAXをお使いの方は、下記までご連絡ください。

連絡先 水鳥 k.mztr@pref.chiba.lg.jp、 0475-54-0226 (電話)

## 今後の管理

### 1. 水管理

生育に応じて順次中干しを開始します。茎数が不足しているほ場では浅水管理を継続し、茎数確保に努めます。ふさおとめなど穂数型のイネが茎数不足になると収量減となりますので、注意します。

4月中旬移植のイネは6月中旬頃より幼穂形成期を迎えます。生育が順調なイネは中干しに入り、用水がとまる前に水をいれておくようにしましょう。

### 2. 追肥

飼料用米（多収品種）は葉色が淡い場合は追肥が効果的です。葉色を落とさない管理を心掛けてください。

コシヒカリは茎数が少なく、葉色がとても淡い場合以外は6月上旬の追肥は控え、穂肥の時期を早めるなどで対応します。

### 3. 除草対策

一発除草剤で取りこぼした雑草が目立ってきています。中期剤で対応していきませんが、雑草の葉令や大きさにより、使用できる除草剤が違いますので、良く確認してから散布しましょう。

広葉雑草・・・サンパンチ1キロ粒剤・フォローアップ1キロ粒剤・ザーベックス DX  
1キロ粒剤・バサグラン液剤/粒剤等

ヒエのみ・・・クリンチャー1キロ粒剤・ヒエクリーン1キロ粒剤等

### 近年多く見られる雑草 イヌホタルイ

イヌホタルイは水田多年生雑草の代表種の1つ。水田では主に種子から繁殖する。代掻き後1週間前後で発芽し、3～5枚の線形葉が出た後に花茎を抽出する。主に土壌表層部の種子が発芽し、大部分の種子は再び休眠する。種子の寿命は長く、1度多量に種子が水田に落下するとその後数年にわたり防除が必要となる。近年では株基部（越冬芽）からの発生も見られている。越冬芽ははじめてから花茎が伸長するため初期除草剤の効果が小さい。



多くの一発除草剤で対応できる葉令は2葉までで、移植後30日までしか使えません。その後はバサグラン液剤等を散布してください。

次回の情報は6月17日（金）に発行する予定です。

この情報は、山武農業事務所のホームページでも公開しています。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-sanbu/sanbu/gyoumu/gijutsujohou.html>